会　議　録

会議名称		令和７年度第３回渋川市食品ロス削減推進協議会
開催日時		令和７年１１月２６日（水）１０時～１１時２５分
開催場所及び出席者		渋川市役所第４及び第５会議室（本庁舎３階） 委員名簿のとおり
配付資料		次第、名簿、私たちの食品ロス削減取組コンテスト応募作品、資料１、私たちの食品ロス削減取組コンテスト審査シート、渋川市事業系食品ロス実態調査結果報告書、資料２
会議次第		１　開会 ２　あいさつ ３　議事 ４　閉会
審議状況	審議経過	次第に沿って、事務局より令和７年度私たちの食品ロス削減取組コンテストの事業経過及び私たちの食品ロス削減取組コンテストの審査方法について説明を行った後、渋川市食品ロス削減推進協議会委員により、取組コンテストの審査を行い、入賞作品を選定しました。
	結論	・議事 （１）令和７年度私たちの食品ロス削減取組コンテストの審査について 事業者部門最優秀賞１点、優秀賞２点、教育機関部門最優秀賞１点、優秀賞２点が選定されました。 （２）事業系食品ロス実態調査結果報告について 事業者の食品ロスに関する実態を把握し、食品ロス削減の効果的な施策の立案に活用するため実施した調査について、報告を行いました。 （３）令和８年度について 協議会として実施したいことについて、各委員に提案を依頼しました。

	発　言　内　容
	・食品ロスは減っているのか。
	・人口減少により、食品ロスは減少している。伊香保温泉があるので、事業系ごみが多い状況がある。
	・企業努力により、食品ロスは減っていると実感している。
	・食品ロスを削減の目標は何か、思い描くビジョンに向けて、そのために何をしていく方が良いのかという道しるべが必要だと思う。
	・規格外野菜だからといって、安く売ることは違うと思う。むしろ新しい商品に規格外の野菜を使いたい。渋川市が他市と比べて劣っていると感じる点は、農家が加工する時の補助がない。他市では、８割～９割補助している。農家の新しい取組（加工）に補助が必要であると感じる。
	・事業系食品ロス実態調査結果報告書をみると、宿泊業の回答が多く、宿泊業にとっては切実であると感じた。 食品ロス削減について「今後も実行は難しい」と回答した事業者の多くが課題について無回答だった。無関心な事業者も多いと感じた。
	・こども食堂を行っているが、食材は集まる。包装資材は物価高騰により、多額の費用がかかる。こども食堂への食材以外の補助がほしい。
	・農家の方の意見はよくわかる。規格外の野菜等があっても、人手が足りず、加工等に手が出せない。
	・家庭のごみを減らすために、できることはなにか模索している。
	・ごぼう、人参など皮をむかずに食べるおっきりこみを学生と作って食べた。おいしく食べられることに驚いていた。実際に作って食べる場があれば、若者に伝わると感じている。
	・群馬県は全国的にみてもごみの量が非常に多い。

	・残飯が多いが、人手が足りず分別ができていない。旅館の意識調査を実施し、今後報告できればと考えている。
	・事業者として、生ものを扱っているがどのくらいが適正か身の丈に合ったものを扱うようにしている。廃棄はあるので、現実と向き合うことをしている。社内では、ロスという言葉を使わないようにしている。
	・規格外野菜を味わい野菜というネーミングにすれば良いのではないかと思う。
	・１０月の食品ロス削減月間に、食品ロス削減全国大会があった。その大会で、「食品産業もったいない大賞」について、農林水産大臣賞を受賞した仲間（群馬県の農家）がいる。
	・昨年は、群馬県で食品ロス削減全国大会を行った。今年度は東京都の千代田区で実施した。
	・企業の自助努力の取組は評価したい。
	・私たちの食品ロス削減取組コンテストの取組について、すべて素晴らしい取組であった。